



EF24-70mm F4L IS USM

オープン価格(実勢12万円前後)

広角レンズ感が表現しやすいワイド24mmからスタートの標準ズームはホントに使いやすいですね。この広々とした描写についでワイド側で撮影したくなりますが、素直な描写の中望遠70mmやグッと寄れるマクロ機能もお忘れなく！なお、EOSデジタルのHDR撮影機能はナチュラルな描写から絵画のようにコントラストをダイナミックに強調したものでどれも素晴らしいチューニングであります。頼り過ぎ厳禁。



シャッター速度 1/80秒
絞り F18
撮影感度 ISO1600
モード HDR 仕上がりに「ピンテージ」



EF70-300mm F4-5.6 IS II USM

オープン価格(実勢6万円前後)

一眼レフの撮影趣味のひとつに望遠レンズによるモチーフのアップや圧縮効果による画面の整理などができます。これにより立体感を感じる被写体の描写ができるのですが、カメラマンをなじみ長い事やっていますと「やっぱり望遠ズームはF2.8通しだね」なんて生気な事いうようになります。でも実際はF5.6ズームでもけっこう背景がボケていい感じになります。それもこれもフルサイズセンサーのお陰様。



シャッター速度 1/1000
絞り F5.6
露出補正 マイナス0.3
撮影感度 ISO800

このカメラ、 好感度。

たびたびごめんなすって↑。こちらは最高感度なISO40000。フルサイズフォーマットの底力を改めて見せつけられた感じがします。この領域はやはり大サイズのセンサーには到底のカメラは敵いません。流石に細部は甘いですが、いざとなればISO40000での撮影も可能という心の余裕は大きいです。



このカメラ、 好感度。

おっとごめんなさい。↑は「高感度」ですなあいすみません。しかし、どうですこれで撮影感度ISO25600。充分イケる画質です。

こ ん な 電 子 寫 真 機 戀 愛

やっぱり使ってみてほしいフルサイズ一眼レフ。

マホの小さなセンサーのカメラにモノ足りなくなったらより大型のレンズ交換式デジカメにステップアップするというのは至極当然の成り行きでございます。

バイクの運転免許も50ccの原付から始めてハーレーなどの大型バイクまでサイズアップしたくなるというもではありませんか？ え、あたくしですか？ 中型限定でしかもかれこれ20数年乗ってませんすみません。で、カメラのサイズアップですが最近のトレンドは「ミラーレス機」という風潮を軽薄蒙昧なネット記事などでよく見かけます。嗚呼、嘆かわしや。

いいですか、一眼レフというのはその名の通りひとつの眼である一本のレンズを通した光を撮影者とカメラボディがレフレックスミラーで振り分け共有するところに魅力がありロマンがあるのです。恋人同士が音楽をひとつのイヤホンで聴くとき、君がレフで僕がRで…なんてところの距離感にロマンスが生まれるのです。ブルトウスで共有したりしたらイカンとです！ カメラとて同じ、露光する瞬間のミラーのパチコン！ という振動(注)が我々のココロを揺さぶるのです！ ……とこれだけ力説したら皆さまにも「一眼レフが欲しい！ それもなるたけフルサイズ！」という意識が芽生えたことと思います。そこで、スペック高等画質上等お値段控えめのこれからフルサイズデジタル一眼レフを始めたい方にぴったりのキヤノンEOS 6D Mark IIでございます！ 35ミリ判フルサイズCMOSセンサーは約2620万画素の高精細な画像と撮影感度はISO100から最高ISO40000もの強力な高感度特性を發揮。さらに先代機種より大幅に高速化した連写速度は6.5コマ/秒。上位機種に肉薄するAF性能は45点オールクロス、液晶モニターはフルサイズフォーマットのEOS初のバリアングルタッチ方式を採用し操作性がグッと向上。これにより脚立に上がらなくてもハイアングル、這いつくばらなくても超ローアングル撮影が首肩腰に負担なく撮れるのがことのほかうれしいのです。その際にはデュアルピクセルCMOS AFによる高精度のオートフォーカスにも大いに助けられ、ピントに不安無く構図に専念できるのもありがてえことです。このように先代機種から画素にして600万画素も増え、撮影感度もISO14400高く、AF測距点も34か

本格的フルサイズフォーマット入門機 EOS 6D Mark II。

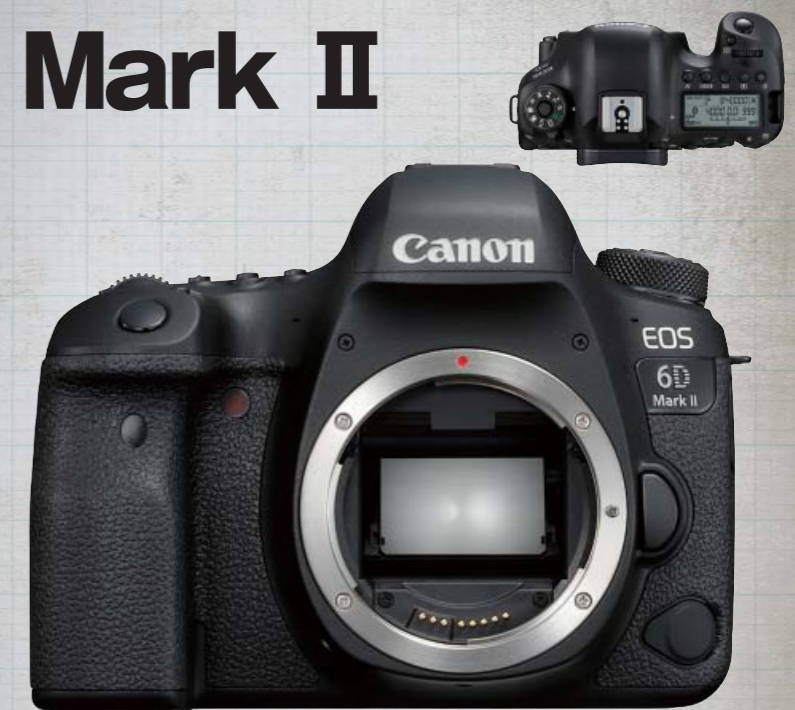
所も増設し、連写速度が2コマも高速になったことに加えて液晶モニターが超絶便利なバリアングルタッチモニター化したという劇的進化を遂げたにかかわらず、質量わずか約5グラムの増加に抑え、外観もフロントエプロン部分にさりげなく「Mark II」と加えたのが主に目立つ点というさりげなさ。これはつまり先代6Dをこっそり下取りに出して6D Mark IIに替えても奥様ご家族にバレないようにとの配慮も働いておるのでございましょう。こういったちゃんなんです、上位機種のEOS 5D Mark IVとさしてスペックに違いはございませんし、撮影感度もコチラが上。しかもバリアングルモニターで約115gばかり軽量という点も軽快に撮影できるというアドバンテージになります。しかも今なら妻にバレ難い……。と、ココロ揺れ動くあなたの背中を押しちゃうレンズを2本。まずは標準的画角をカバーするEF24-70mm F4L IS USMがまじオススメ。つい若者コトバを使ってしまうほど便利なマクロ領域まで一本で表現できる標準ズームレンズです。望遠端70mm側で切り替え操作により最短撮影距離0.2m、最大撮影倍率0.7倍の本格的なマクロ撮影も可能。さらにハイブリッドISを搭載してこの1本でワイドから中望遠、さらにはマクロまでカバーしてズーム全域でシャープな画質を楽しむことができるのです。そして望遠撮影はEF70-300mm F4-5.6 IS II USMに任せるのがにほふがごとく今さかりなり。おっと、つい古語を使ってしまうほど趣深いのがコチラの最新望遠ズーム。中望遠70ミリから望遠300ミリまでカバーするズーム比4倍の幅広い撮影レンジとシャッター速度で約4段分の手ブレ補正機能も搭載、このレンズの手ブレ補正は流し撮りも自動で判別。そして外観上の特長にEFレンズで初めて「液晶画面」を搭載。ここに「撮影距離」「焦点距離」「揺れ量」の3種類を好みで表示できるという恰好良さ。どれもおそろかにできない情報であり、ひと目でレンズの状態が把握できるという実用的な機能なのでもあります。フルサイズセンサーの余裕を感じる画質と、長時間の撮影でもバッテリー消費の少ない洗練されたボディコントロール、優れた描写の最新レンズによる大画素高画質のEOS 6D mark IIを手にも春の訪れを撮ってみるのはいかがでしょうか？

注・このEOS 6D mark IIのミラーの作動による振動はほんのわずかささやく程度なので手ブレとか画質方面に影響はまるでございませぬ。ゆさぶられるのはココロだけです。(当俺比)



写真と文 織本知之
通が昔、小型カメラや中型、大型カメラが現場に混在していたころに比べれば今はカメラバッグのチョイスに困ることも少なくなりまして、たが、ちびっちゃんミラーレスを仕舞って、バッグにフルサイズカメラを入れておくとすると仕切りがシママでその都度バリエーション……。新しいのほしいな。

キヤノン EOS 6D Mark II



35mmフルサイズCMOSセンサー
映像エンジンDIGIC7
約2620万画素
バリアングルタッチパネル液晶
デュアルピクセルCMOS AF
連続撮影約6.5コマ/秒
ISO100~40000
ボディ幅144×高さ110.5×厚み74.8mm
本体質量約685グラム
オープン価格(実勢20万円前後)
◎キヤノンお客様相談センター ☎050-555-90002



この小窓から 新たな風が。

どうですか！ この距離表示と被写界深さのデジタル表示。比較的深めの70ミリ域から望遠300ミリのわずかな被写界深さまでシームレスに表示。手ぶれ補正もシャッター換算約4.0段と強力。表示モードボタンで「焦点距離」「カメラ揺れ量」と切り替えもできます。



こんなところが 愛おしい

フルサイズ機というファインダーがぐっしり覗いて、ピシッとした構図でシャッターを切るヴェテランが好むという背景もございませぬ。やっぱり便利なバリアングルモニター。デュアルピクセルCMOS AFの高精度なオートフォーカスでライブビュー撮影が快適高速。